

深小っ子《一月》暗唱チャレンジ

令和二年初めての暗唱です。今月の暗唱課題は、
五・七・五・七・七の三十一文字からなる和歌を三つ
覚えましょう。

ふだん使わない言葉で覚えづらいと思いますが、がんばって覚えてください。

かきのもとのひとまる

柿本人麻呂

ひんがし

の



い

たみ

東の野にかぎろひの立つ見えて

えみ

つきかたぶ

かへり見すれば 月傾きぬ



やまのうえのおくら

山上憶良

しろかね

くがね

たま

銀も金も玉もなにせむに

まさ

たから

こ

優れる宝子にしかめやも



しきのみこ

志貴皇子

いわばし

たるみ

うえ

石走る垂水の上のさわらびの

もい

はる

萌え出づる春になりけるかも

【意味】

東^{ひがし}の野^のに日^ひの出^で前^{まえ}の光^{ひかり}が差^さし始^{はじ}めるのが
見^みえて、後^{うし}ろを振^ふり返^{かえ}って（西^{にし}の方^{ほう}を）見^みて
みると、月^{つき}が傾^{かたむ}いていた。

※かぎろい…かげろう

銀^{ぎん}も金^{きん}も宝^{ほう}石^{せき}も、どうしてそれらより優^{すぐ}れ
てい^こる子^{ども}供^も（とい^たう宝^{から}）に宝^{たから}として及^{およ}ぶだ
ろうか。いや及^{およ}ばない。

※玉^{たま}…宝^{ほう}石^{せき}

岩^{いわ}の上^{うえ}を激^{はげ}しく流^{なが}れる滝^{たき}のほとりでは、さ
わらびが芽^めを出^だす春^{はる}にな^みったことだなあ。

※石^{いわ}走^{ばし}る…水^{みず}がしぶきを上^あげて、岩^{いわ}の上^{うえ}
をは^{なが}げしく流^{なが}れる様^{よう}子^す

※垂^{たる}水^みの上^{うえ}…滝^{たき}のほとり

※さわらび…芽^めが出^でたばかりのわらび